

静岡県の一ホンジカ管理 の取組状況と課題

静岡県くらし・環境部自然保護課

課題

捕獲困難地で
シカが高密度化



2017 (H29) 年度~

実施計画策定

生息密度調査 3倍増

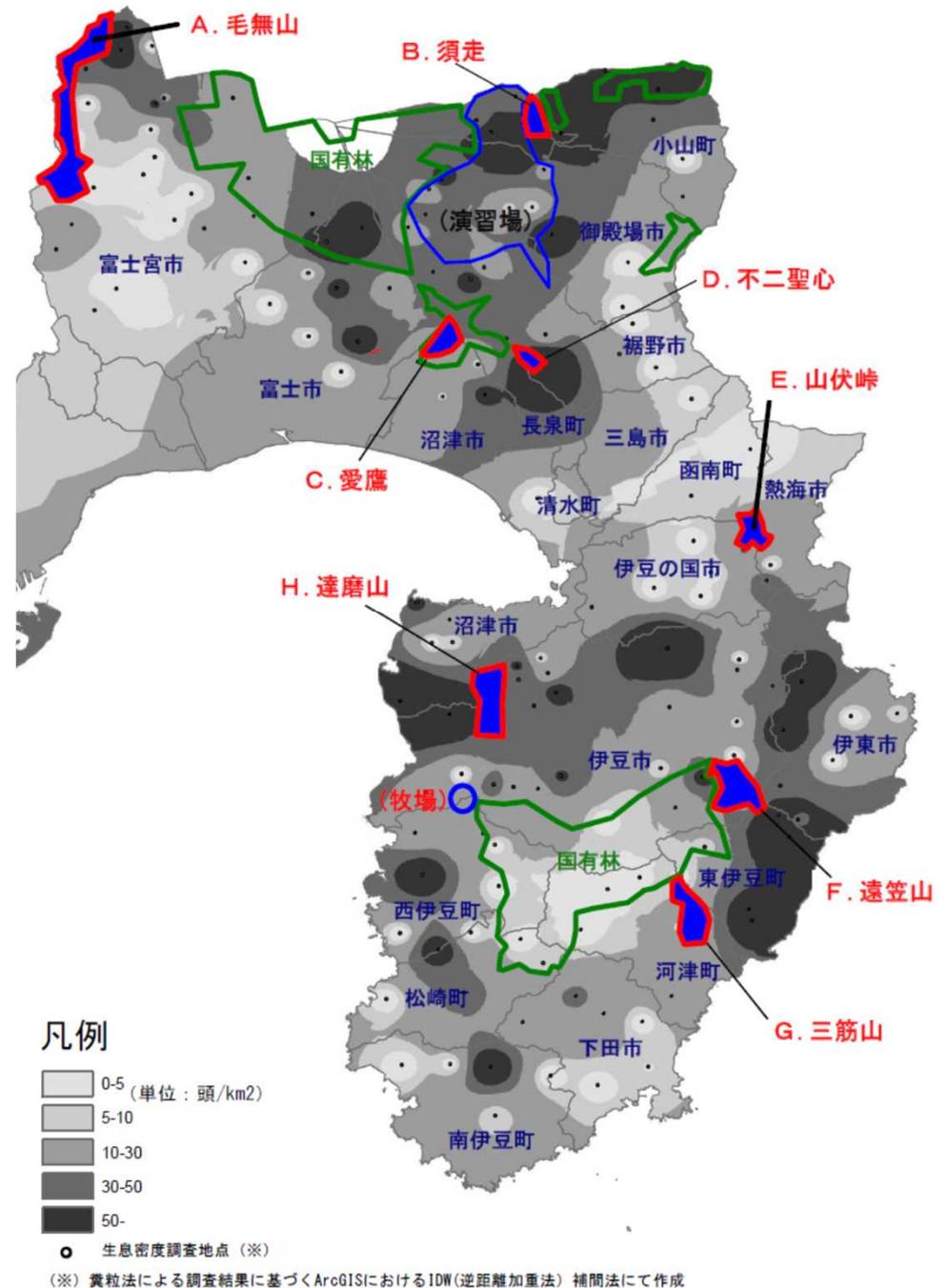
→毎年度、捕獲の効果等
を確認、計画見直し

→図示化、情報共有

認定鳥獣捕獲等事業者

(=地域外の捕獲者)

による捕獲を開始

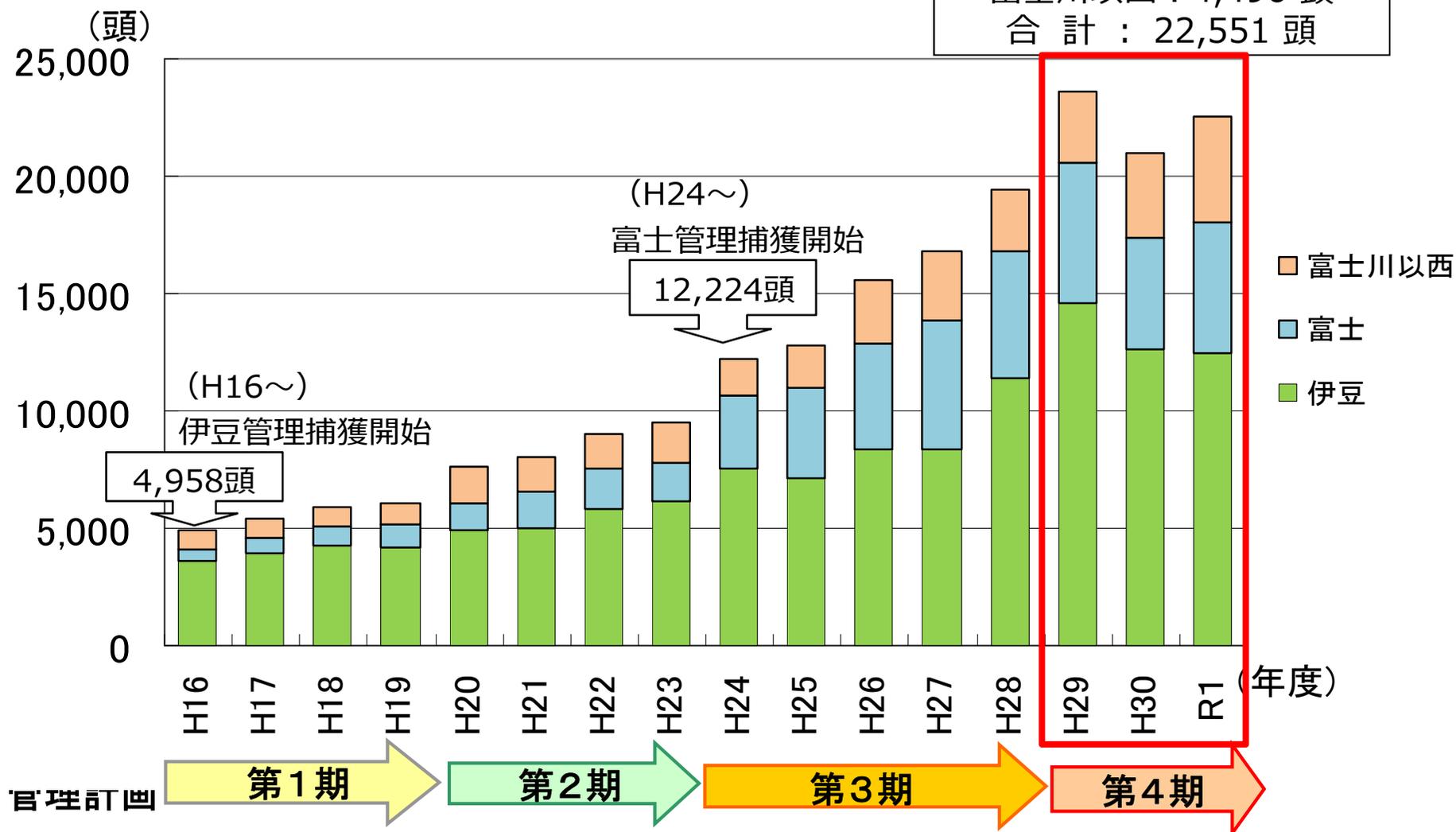


静岡県内のニホンジカの捕獲頭数

→ 増

【R1 捕獲実績】

伊豆：12,489 頭
 富士：5,557 頭
 富士川以西：4,496 頭
 合計：22,551 頭

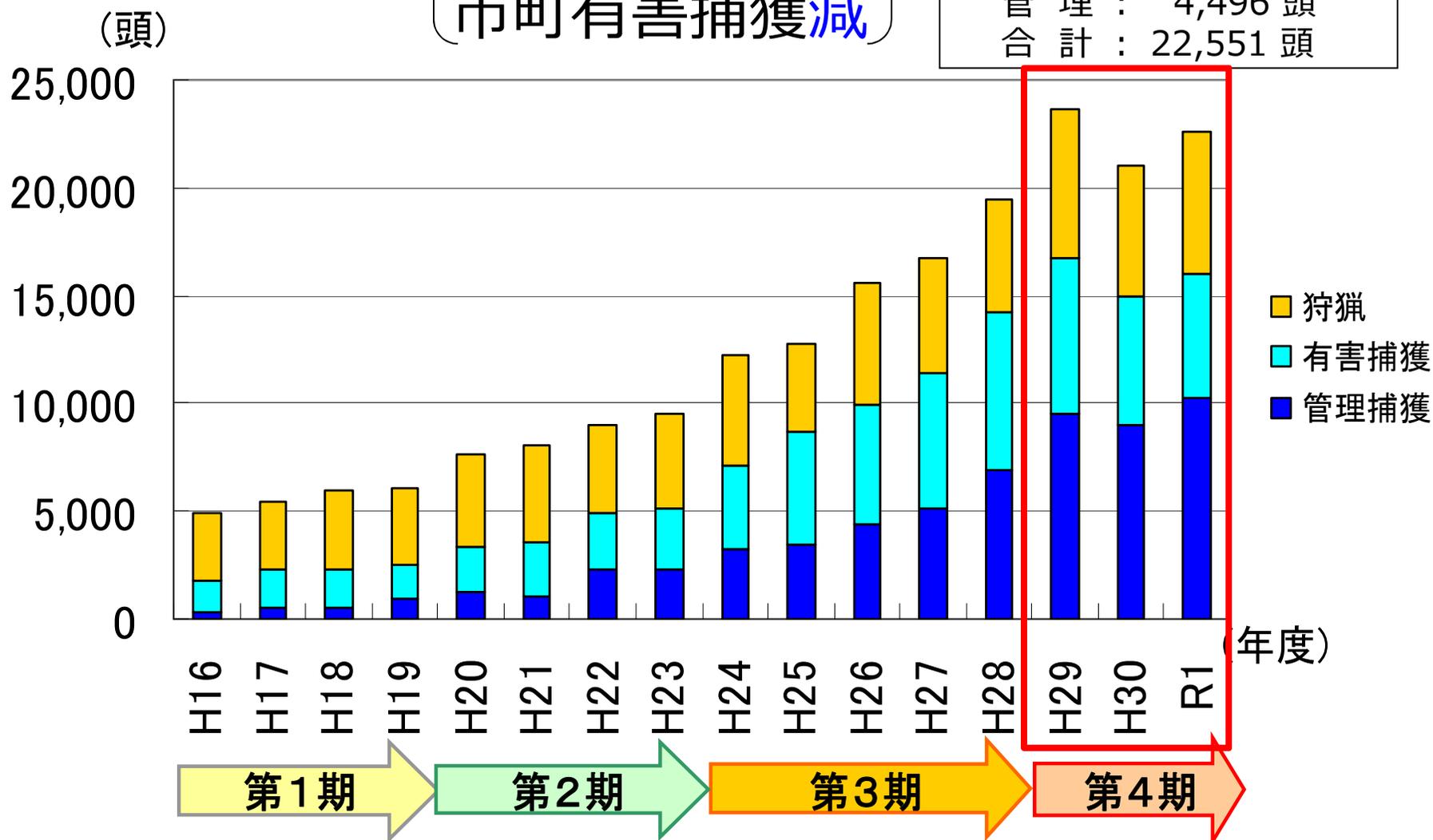


静岡県内のニホンジカの捕獲頭数

→ **増** (県管理捕獲**増**
市町有害捕獲**減**)

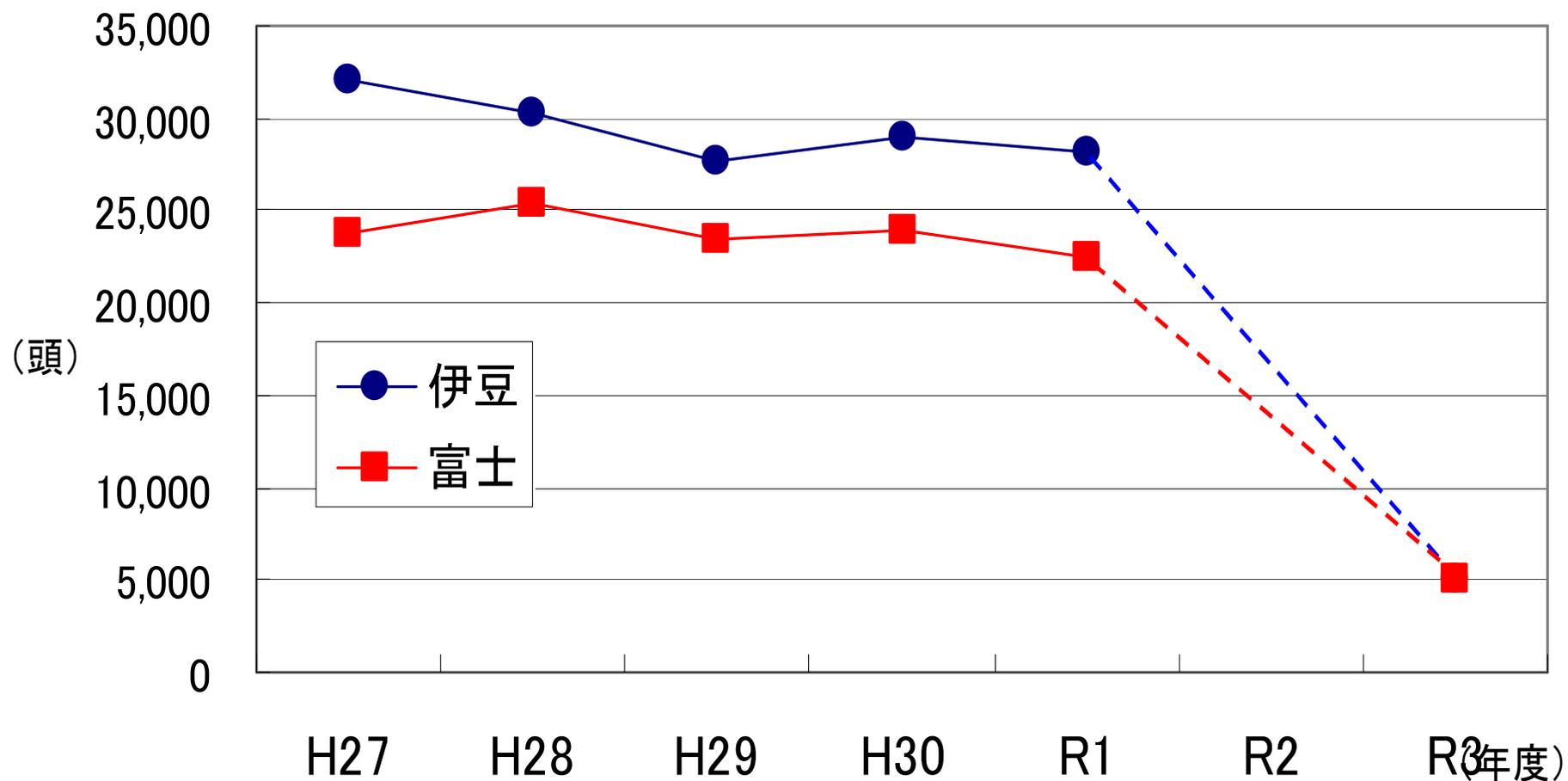
【R1 捕獲実績】

狩 猟 : 12,489 頭
有 害 : 5,557 頭
管 理 : 4,496 頭
合 計 : 22,551 頭



推定生息頭数の推移(伊豆地域・富士地域)

→ 増加は抑制されているが、目標 (R3末:伊豆・富士地域各5,000頭) 達成は困難

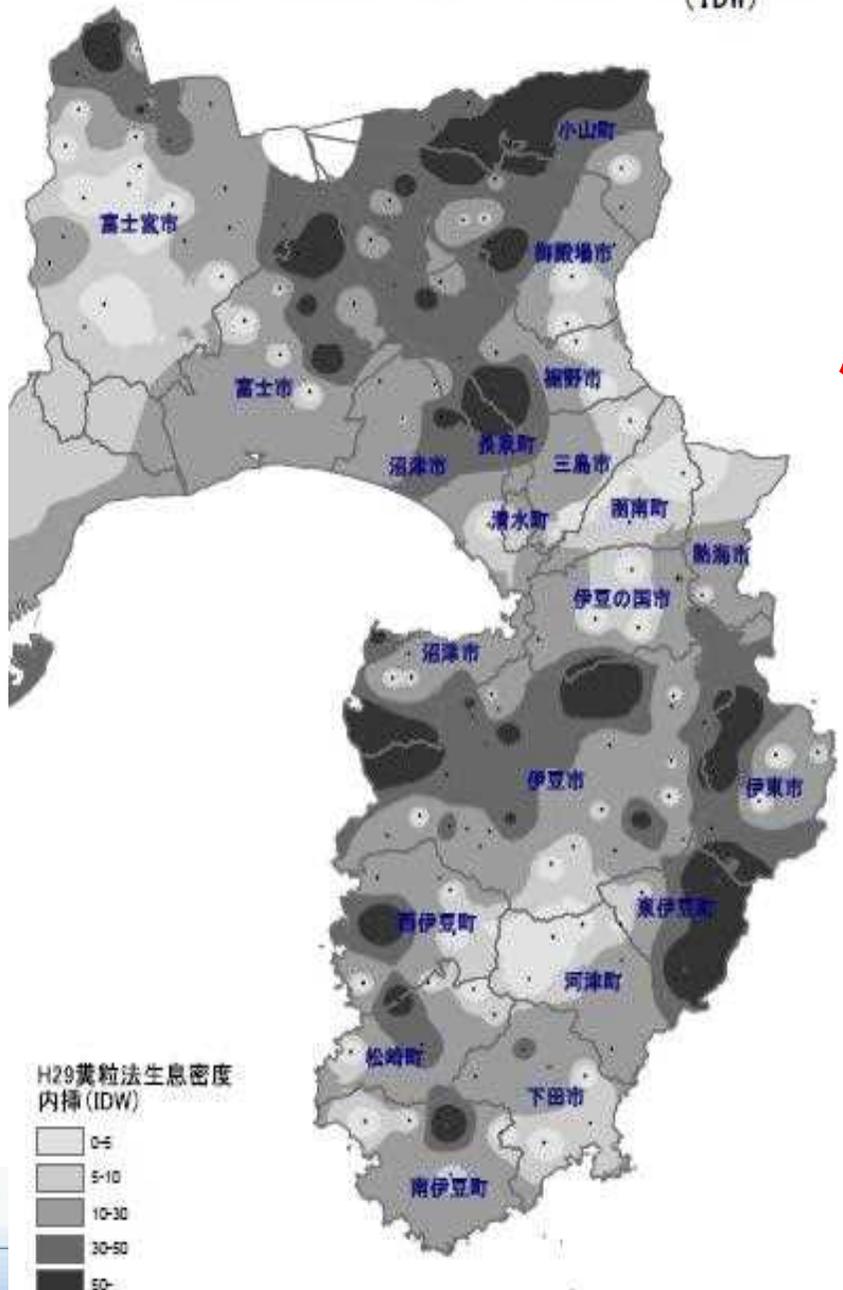


第二種特定鳥獣管理計画 (二ホンジカ 第4期 H29~R3)

管理ユニットの変更 (平成31年4月~)



平成29年度末時 伊豆・富土地域糞粒法生息密度図
(IDW)



【課題】

近年、捕獲がある程度進める中で、**大字単位で生息密度の濃淡が現れている**

【今後の対応】

- ・ **各市町ごとに捕獲・生息密度状況を把握**する方が対策の実効性が高く、有効



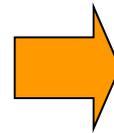
各市町単位での捕獲数や生息密度などの管理へ



伊豆地域

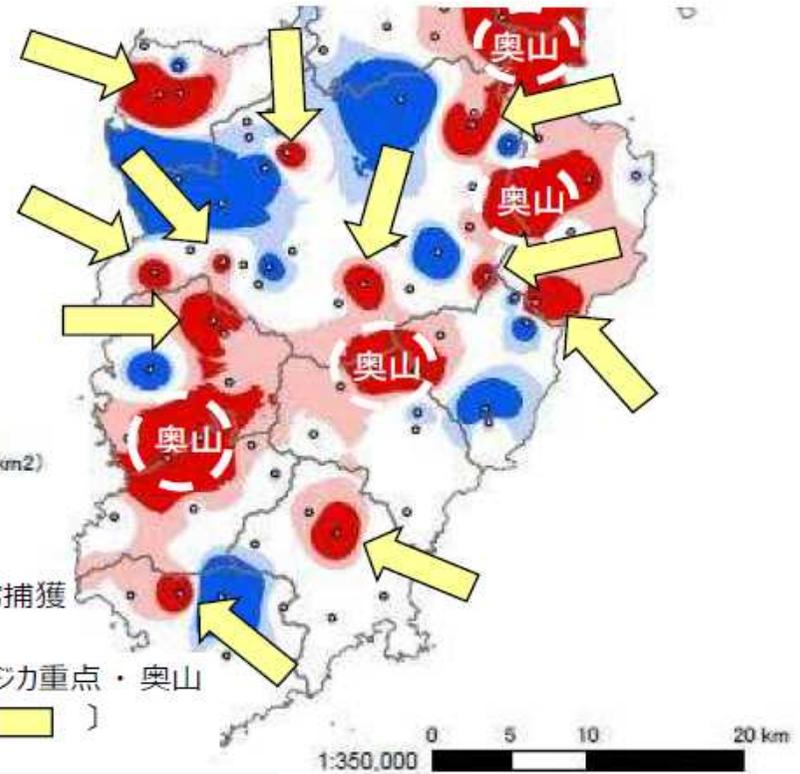
5 ユニット

12 市町



令和2年度の主な取組（捕獲戦略）

○(R1ニホンジカ検討会の意見)
 生息密度が高い区域で捕獲するだけではシカは周辺に散って減らせない。
 →【戦略】周辺への捕獲圧を維持しながら、コア部分をメスジカ重点・奥山捕獲で攻める。



区分	捕獲場所・方法	委託先
通常	場所: 指定なし (奥山実施区域外) 方法: 指定なし	県猟友会
メスジカ重点 (R2~)	場所: 大字指定 (奥山実施区域外) 方法: くくりわな	県猟友会
奥山 (H29~)	場所: 区域指定 方法: 指定あり	認定事業者 (県猟友会含)

静岡県内の認定鳥獣捕獲等事業者

現在：6事業者

認定証交付日と事業者：

H28. 4.26 有限会社 高山興業

H28.12. 6 株式会社 いしい林業

H29. 4.24 一般社団法人 静岡県猟友会

H29. 5.12 特定非営利活動法人 若葉

H29. 11.24 特定非営利活動法人

天城の森フォルスターズ倶楽部

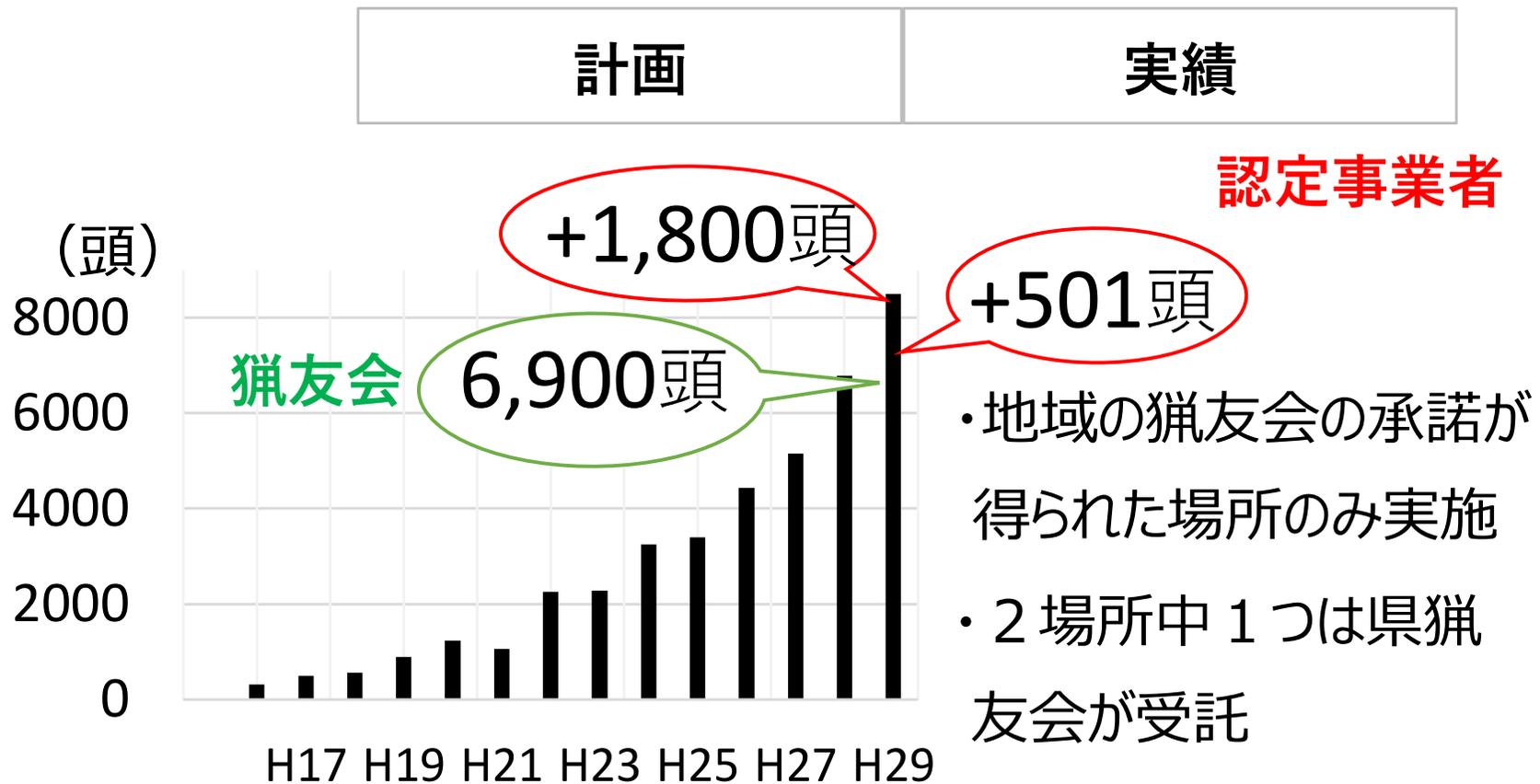
H30. 1. 4 特定非営利活動法人 Roots Japan

→H29～奥山等捕獲困難地で捕獲をスタート

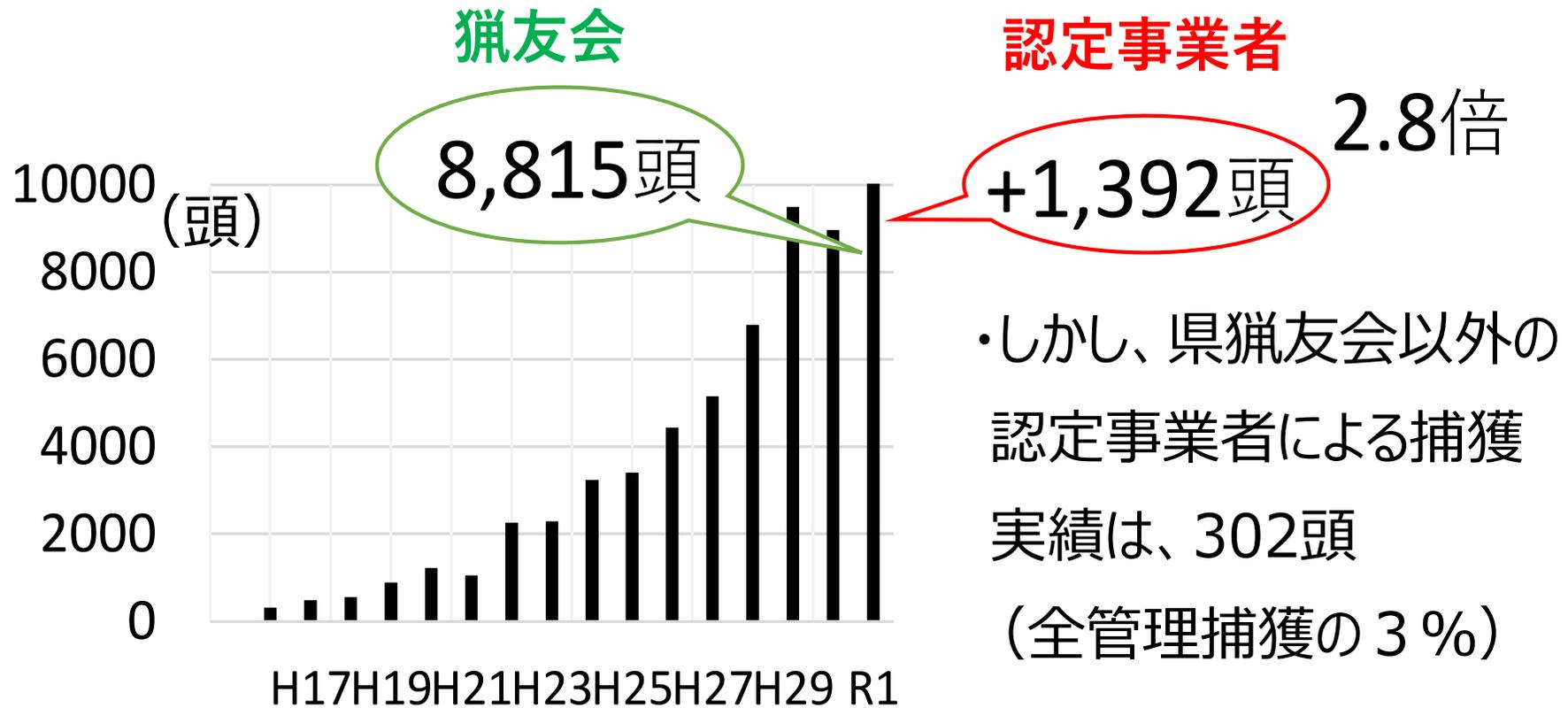
平成29年度の管理捕獲※実施状況

※H27～全て指定管理鳥獣捕獲等事業により実施

※H29～奥山等捕獲困難地で認定事業者による捕獲を開始



令和元年度の管理捕獲実施状況



静岡県管理捕獲の担い手の構造

総捕獲頭数の4割はわずか18名の熟練者
(平均年齢74歳)に依る。

課題： **新たな担い手の育成**



図 2017 (H29) 年度 管理捕獲 (伊豆・富士地域)
のくくりわな捕獲実績にみる担い手の構造

連携（連絡・調整）が求められる 二ホンジカ管理の現場

必要な連携とは

- 管理の必要性、目的や方針、進め方を理解共有して
足並みを揃える
- 実行における役割・責任を分担する
- シカ問題への理解、協力、参加を他者に働き掛ける

個体数の管理が必要な指定管理鳥獣については、
狩猟、有害、管理捕獲で捕獲報告の項目、レベルの
統一（制度化）が望ましい

そのほかの課題：

- ・ 自衛隊演習場（立入制限のある広大な草地環境、
周囲柵なし）や県境をまたぐ区域の管理
→環境省や国の機関の積極的な取組や支援が必要

